

## 平成30年度 学校目標

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
			具体的な方策	評価の観点
1 教育課程 学習指導	<p>①基礎学力の育成を軸に、社会的・職業的に自立できる人間の育成に向け、教育課程の工夫・改善に取り組むとともに、授業力を高めるための組織的取組みをすすめる。</p> <p>②学校行事や生徒会活動における生徒の主体的な活動の促進を図る。</p>	<p>①授業改善のための研究会を活用し、生徒が主体的・協働的な学びを通して基礎学力を身に付けるための工夫を進めるとともに、授業を超えた学びの場のあり方を追求する。</p> <p>①学習環境の整備や学習指導の技術の研究を通して生徒のよりよい学びにつなげる方法を工夫する。</p> <p>②学校行事により主体的に参加し、仲間との協働的な活動を通じて人間力の育成を図れるよう生徒への積極的な働きかけを継続する。</p>	<p>①授業改善に向けた研究会を複数回実施するとともに、外部講師を招聘して研究会の質を高める。</p> <p>①田奈ゼミ及び進学研究会等の取組みを年間を通して組織的にすすめる。</p> <p>①教育課程の見直し及び授業の相互見学を通し、授業の工夫点等を共有する。</p> <p>①生徒がスムーズに授業に取り組む、また集中して授業に臨むことができるよう、指導法の工夫・環境整備を行う。</p> <p>②各行事において中心となる生徒の意見・活動を重視しながら、一部の生徒だけでなく、全校生徒が主体的に行事に参加できるよう環境を整える。</p> <p>②生徒会活動活性化に向け、生徒会役員等の意識高揚を図る。</p>	<p>①教員だけで実施する研究会を何回実施したか。また、授業の工夫点を共有できたか。</p> <p>①田奈ゼミと進学研究会を教員間の連携を図って実施したか。</p> <p>①教育課程の見直しを行ったか。</p> <p>①指導法の改善や環境整備を行ったか。</p> <p>②生徒の行事への参加率。</p> <p>②体育祭の応援団、文化祭の有志団体、駅伝大会の参加人数。</p>
2 生徒指導・支援	<p>①生徒一人ひとりが抱える課題を的確に把握し、きめ細かい個別支援を行うための仕組みづくりを進める。</p>	<p>①教職員が生徒と向き合う時間を確保するとともに、きめ細かい個別指導・支援に向け、外部資源との円滑な連携を通して「チーム田奈」としての校内体制を再整備する。</p>	<p>①休み時間等授業以外における生徒とのコミュニケーション機会を充実させ、情報を共有する。</p> <p>①会議・研修事業のスリム化を図る。</p> <p>①SC、SSW、SCCをはじめとした専門人材の活用及び情報連携を図る。</p>	<p>①職員室、学年室等における職員間の情報共有及び連絡黒板等の活用度合い。</p> <p>①会議・研修事業の回数、時間。</p> <p>①SC、SSW、SCC等の活用実績。</p>
	<p>②部活動における生徒の主体的な活動に向けた支援を進める。</p>	<p>②部活動の活性化に向け、全校生徒の4割程度が部活動に加入することを目指し、引き続き働きかけを行うとともに、部活動指導のための体制・環境を整える。</p>	<p>②各顧問が活動場所で指導できる時間を確保し、生徒の日々の活動を見守り、生徒の積極的な取組みを評価する。</p> <p>②各行事や対外試合における部員の活躍を学校全体で共有し、評価することで部活動に継続して参加する生徒を増やしていく。</p>	<p>②部活動生徒の加入率（年度末の部活加入率が4割程度を目標）</p> <p>②途中退部者の減少。</p>
3 進路指導・支援	<p>生徒の実態やニーズを的確に把握し、個人の努力のみで達成できない社会的バリアの除去を含む視点からの支援を併せて行うとともに、そのための仕組みづくりを進める。</p>	<p>生徒一人ひとりが社会的自立を実現できるように生徒の困難の可視化と早期支援・多角的支援を行えるよう進路支援と生徒支援の柔軟な連携を図る。またそのための仕組みづくりを継続する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任と連携し、SCCや就職・進学担当が生徒との個別面談やワークショップを実施し、ミスマッチのない進路実現の支援を行う。</li> <li>・個人の特性や環境に大きな課題のある生徒に対しては、キャリア支援センターを通じた外部機関と連携を図り、個々の特性に合わせた進路の実現を図る。</li> <li>・緑法人会等の外部機関との連携をより緊密にし、キャリア教育、就職(自立)支援の一層の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路決定状況。</li> <li>・進路未決定者の減少。</li> <li>・外部資源(組織・人材)との連携状況。</li> <li>・職場見学体験、マナー研修、3年面接指導(8月)等の実施状況。</li> </ul>
4 地域等との協働	<p>地域の様々な社会資源との協働を通して、地域に根ざした学校づくりを進めるとともに、地域貢献活動を充実させる。</p>	<p>地域の外部機関との連携を軸に、生徒の社会的実践力を向上させるとともに、生徒の自己効力感の増大につながるための機会提供を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域貢献活動など、地域社会への参画の機会を設定する。</li> <li>・自治会や施設と連携した生徒の活動機会を拡充するとともに、地域の学校理解を促進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域貢献活動の取組み状況。</li> <li>・近隣の学校、施設や自治会、行政機関と連携したボランティア活動等への参加回数。</li> </ul>
5 学校管理 学校運営	<p>学校が抱える課題に対して、教職員が意欲を持ち、主体的に教育に取り組むための「生き生きとした職場づくり」を図る。</p>	<p>教職員の異動の状況を踏まえ、教職員間の有機的な協働のための校内体制を見直す。また、ベテラン教職員と若手教職員が切磋琢磨する機会をさらに充実させ、即戦力となる人材育成につなげる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業見学週間や情報交換会を開催し、若手教職員と本校経験豊かな教職員や多くのベテラン教職員との情報共有の機会を充実する。</li> <li>・生徒の個別対応時において、OJTを踏まえた複数対応を原則とし、指導のノウハウ等を継承する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習支援、生徒支援等のノウハウを共有する研修等の回数。</li> <li>・対生徒及び教員相互のコミュニケーション機会を拡充するための時間確保の状況。</li> </ul>